

2018年6月30日

平成30年度同窓会総会挨拶内容

1. ただ今、ご紹介いただきました同窓会会長の吉田俊雄です。本日は、梅雨が空けたかのような真夏とも思える暑い中を、またご遠方からも含め沢山の方々が本総会に足をお運び頂き誠にありがとうございます。私が本総会の議長を務めさせていただきます。経済学部経済学科、19回生、岡ゼミでクラブ活動は商業英語研究会（BEC）に所属しておりました。ご承知のように、一昨年の総会において、会長に選任されましたので一期二年の任期を終えました。従いまして、今年度は役員改選時期となっております。後程の議案の中で皆様にご審議いただきますが、4月度の理事会において会長職を重任することとしてご推薦をいただきましたので宜しくご審議の程お願い申し上げます。

2. 同窓会活動の関連報告の前に、大学の現況について触れさせていただきます。総会後の懇親会の場で山寄学長のご挨拶がありますがいくつかのポイントについてご報告いたします。平成27年度からスタートしたロンドン大学の経済学位が取得できる「パラレル・ディグリー・プログラム」も順調に経過し来年、平成31年度には初の学位取得者が誕生できる見込みです。又昨年、平成29年度からスタートした人文学部の「グローバル・スタディーズコース」と社会学部の「グローバル・データサイエンスコース」も二年目に入り共に優秀な学生がグローバル教育に取り組んでおります。このような取組と伝統である少数教育・ゼミの武蔵とがあいまって年々大学の評価も上がってきています。結果として平成30年度の一般入試志願者数は18,080人となり過去最高であった昨年比105%となっております。一方、昨年入学生が1,300人を超え大幅増となったため、今年度は絞り込みを行ったので入学者数は1,080名とバランスのとれたものとなりました。

学生の就職状況についても大学のキャリア支援を中心に同窓生の協力も得て順調に推移し就職希望者の就職率は97.9%となっております。詳しくは、既にお手元に届いております「白雉たより」をご覧ください。

その他のトピックスをいくつかご報告します。昨年の10月には江古田の商店会と江古田の三大学が協力し練馬区の後援を得て「第一回の江古田音楽祭が一週間に亘り開催され大いに賑わいました。その前夜祭として当武蔵の大講堂で「さだまさしコンサート」が開催され

会場は超満員となりさだまさしさんの人気ぶりがうかがえました。運動部の関係では、硬式野球部が昨年の春の首都大学二部リーグで優勝し入れ替え戦でも勝利し、秋には一部リーグで4位となりました。そして、この春のリーグでは東海大に次いで準優勝となりました。又、今年60周年を迎えたラグビー部でも対抗戦リーグBグループの二位となり青学との入れ替え戦に臨みあと一步のところまで漕ぎ着けました。直近のニュースでは柔道部も奮戦し全国大会への出場権を獲得しました。三つの事例をだしましたが、他にもいろいろと頑張っている状況ですので機会がございましたら是非応援におでかけください。

芸能関係でもたくさん卒業生が活躍しておりますがここでお二方を紹介します。落語界では三遊亭好の助さんが真打に昇進され、6月23日には有楽町よみうりホールで真打披露公演が行われました。講談界では「今、最もチケットの取れない講談師」といわれている神田松之丞さんが舞台にラジオ、テレビで大活躍をしています。今年のホームカミングでは神田松之丞さんに講演をお願いしておりますのでご参加の方は楽しみにしてください。

3. さて、同窓会活動についてですが、詳細についてはこの後、事務局よりご報告いたしますので、私の方からはいくつかのポイントについてご報告いたします。2016年度からの新しい取組みとしてスタートした活動として2点あげられます。一つ目は本部組織に文連・サークル部会を新たに設置しより多くの文連・サークルのOB会活動を支援し同窓会活動の活性化をはかっていくこととし地道な活動を続けております。同部会では2022年度までの中期計画を策定し、段階的に活動の輪を広げ最終的には文連・サークル部会合同懇親会開催を目標としております。本日、ご参加の方々で関連するケースがありましたらご協力のほど宜しく願いいたします。二つ目としては、職域・業種部会において、新たに「職域白雉会」を発足し各業種の幹事の方々にお集まりいただきました。2年目の本年も昨年同様12月に開催し各業種から17社22名の参加があり、学園・大学との協力体制のもと順調に継続をしております。今後は職域白雉会を通じ「卒業生同志の交流」「在校生との交流」「就職支援」を更に推進していくことといたします。
4. 次に土曜講座ですが、今年度も3回の開催を行い、どの会も興味深いテーマを大学側の講師と大学同窓会、高校同窓会からの講師それ

ぞれにご講演をいただき大変に好評でした。その中で、一件とりあげさせて頂きますが、11月11日に行われた東日本大震災復興支援映画「MARCH」上映及びトークセッションは普段の土曜講座とはちよつと趣きの違うものでした。第34回卒業でサッカー好きが高じて「ちょんまげ隊のツンさん」というサポーター名称がついた角田寛和氏が東日本大震災直後から商いとしていた靴を被災地に届けることから復興支援に入り込みました。そこから、南相馬市のマーチングバンドの復活までのドキュメンタリー映画をプロデュースし昨年にはロンドン国際映画祭・外国映画部門・最優秀作品賞を獲得し、続いてニース国際映画祭・外国部門・最優秀監督賞を受賞するなど海外での高い評価を得ました。こうした日本のみならず海外へ雄飛する姿はまさに武蔵の建学三理想を具現化している好事例として大学卒業式でも山寄学長の挨拶の中で紹介されております。トークセッションでは永田教授との絶妙な対話があり、又ネパール復興支援に対する熱い思い等、まっしぐらに取り組んでいる姿が印象的でした。土曜講座につきましては、今年度も継続していきますが、大学側と協力し魅力あるテーマに取り組んでいきたいと思ひます。

5. 同窓会活動の中でも中核をなす地方支部では支部総会開催が昨年度と同様35支部にも及び、ますます活発に活動を継続しております。卒業生による特別講演なども組み込んでより魅力的な集まりにできるようそれぞれの支部で工夫されていることは喜ばしいことでもあります。一方、参加者の顔ぶれをみると固定化しているとか、若い方・女性の方が少ないなど課題も抱えており本部とも連携しより幅広い方々の参加を増やすよう努力していくことが肝要となっております。
6. 同窓会の準会員である現役学生への支援活動ですが、本部内の準会員部会が中心となり様々な支援活動を実施しております。地方学生奨学金制度も定着しており、2017年度は昨年と同じ38名の学生さんに給付いたしました。同窓会からは200万円の拠出を行い、大学側と合わせ一人10万円の奨学金となっております。
7. 広報部会では新広報部会長として広瀬常任理事が編集長を務めることとなり、新たな紙面づくりに向けいろいろな企画に力を入れていきますので皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。また、ホーム

ページのリニューアルにも取り組んでおり今年中にはあらたなホームページが出来上がる予定です。月一度発行しているメルマガも同様にご意見・ご要望等ございましたら是非ともご連絡願います。

8. 最後に、大学同窓会としての母校支援と年会費納入についてお願いいたします。武蔵学園百周年記念事業推進資金募金については、2007年度からスタートし現在目標額24億円に対し19億3千6百万円の約81%のところまでできております。皆様のご協力にあらためて御礼申し上げます。今回、お手元に届いている「白雉たより」の中で山寄学長のいっておられる「地球市民の育成」については冒頭にお話ししたようにその一環としてのグローバル教育が着々として進んでおります。これをますます充実させていくのは留学への支援等奨学金の拡充や優れた教育者の確保等が必要であり同窓会への理解と支援を要請されております。同窓会としても、武蔵大学の一層の発展に向け皆様のご理解とご支援を従来にもましてお願いいたします。具体的には、ベースとして一番大事なのが、年会費を確実に収めて頂く輪を大きくしていくことです。昨年度はほぼ予算通りの約750万円でしたが、プロジェクト1000として掲げている1000万円にはまだ距離があります。同窓会本部としても様々なイベントを含め努力してまいりますのでご協力をお願いいたします。年会費の納入方法についても、昨年総会時にもご意見がありましたコンビニ支払を今年度後半より始める予定であります。年会費とは別に、母校支援の為の募金活動組織として武蔵学園後援会があります。長年にわたりご寄付をいただいている方々への感謝と同時に、まだ後援会へのご寄付をされていない方々には趣旨をご理解の上、僅かな金額でも結構です。来年には大学70周年を迎え、記念事業を計画しております。続いて2022年にはいよいよ武蔵学園100周年を迎えることとなりますので大学、高校・中学、各同窓会、学園法人が一致協力し発展に向け努力していくことが大事であります。皆様のご理解とご支援をお願いし私の挨拶とさせていただきます。

以上